

未来を創ろう

宇宙船のようなチタンの球体が近代的なビルから今にも浮かび上がりそうです。そんなユニークな外観を持った「たかまつミライエ」が昨年11月23日に待望のオープンをしました。プレイルームを持つ子育て支援ゾーンや自然科学展示、プラネタリウムも併設した「こども未来館」を中心に、児童書を充実させた「夢みらい図書館」、高松空襲などに関する資料展示で平和の尊さを伝える「平和記念館」、男女共同参画社会の実現を目指す各種活動の拠点となる「男女共同参画センター」などを擁する高松市の新しい複合施設です。

「ミライエ」の愛称は、子どもたちの未来を育む家のように安心できる施設との趣旨でつけられています。

入り口のドアを入ると愛らしくも奇妙な姿の昆虫のキャラクター、Pちゃんのレリーフが目に入ってきます。長らくニューヨークで活躍され、最近本市に里帰りをされた川島猛先生の作品『Angel P's Dream land』です。天使のPちゃんが見ている夢の世界。「P's」はピース（平和）にもつながります。ミライエにぴったりのわくわくするような明るく楽しい玄関となりました。

こども未来館の名誉館長には、香川県出身の著名な宇宙物理学者である佐藤勝彦先生に就任いただきました。「ふるさとの子供達の未来のためになるのなら」と快くお引き受けをいただき、本当にありがたく思います。開館日には「宇宙に生命はあるのか」というテーマで記念講演も行っていただきました。

その日、佐藤先生が求められて色紙に書かれた二つの言葉が強く印象に残っています。一つは『美は真、真は美』というものです。19世紀初頭に生き、25歳で夭折（ようせつ）したイギリスの詩人ジョン・キーツの「ギリシャの壺に寄す」という詩の中の言葉でした。宇宙の真理を追い求める科学者である佐藤先生もそこに美を見出し、それが真実の対象なのだという哲学的な思いを持たれているのかも知れません。もう一つが『未来を創ろう』という言葉です。宇宙と同様に子どもたちの未来も無限大です。まさに「ミライエから未来へ」向けて新しい時代を創っていこうという希望に胸が大きく膨らみます。

新年が始まりました。その新鮮な日々の中で、改めてこの二つの言葉をじっくりと味わってみたいと思います。